

第 10 回（令和 7 年度 第 2 回）天竜川水系流域委員会

議事要旨

日 時：令和 7 年 7 月 3 0 日（水曜日） 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 5 0

場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口
バンケットホール 7 B

1. 開会

開会挨拶（中部地方整備局 天竜川ダム再編工事事務所長）

2. 挨拶

委員長挨拶

3. 議事

（１）天竜川ダム再編事業の事業再評価

・天竜川水系流域委員会の役割【資料- 2】

・意見なし

・天竜川ダム再編事業説明資料【資料- 3】

・事業の必要性は理解した。天竜川中下流部は 1/1000 程度の河川縦断勾配となっているが、秋葉ダムでのスルーシングによって土砂が河口まで運ばれるのか。秋葉ダムスルーシングによる下流河川への影響をシミュレーションにより明らかにして欲しい。また、下流域の生態系への影響についてもしっかりと調査をお願いしたい。

⇒（事務局回答）佐久間ダムからは細かな粒径の土砂を河川還元するが、現状で天竜川中下流部の一部で堆積が認められ、河道内に土砂が堆積するのではという懸念意見も伺っている。

シミュレーションでは洪水流とともに河口部まで大半は流下すると想定しているが、土砂還元による影響について現状では十分に知見が得られていない部分もあるため、今後も調査を続けて現地の状況を捉え、土砂還元の具体的な運用の検討を関係者と調整をしながら進めていきたい。

・天竜川上流部では、美和ダムでの排砂についてモニタリング調査を実施している。美和ダムのある三峰川では非常に細かな粒径を流しており、ウォッシュロード分が付着してアユの餌となる藻がつかないなどの状況が見られている。秋葉ダムのスルーシングの運用検討や予測の参考とされたい。

⇒（事務局回答）先行事例及び総合土砂管理として流砂系全体の土砂管理計画踏まえ、河川事務所とも連携して検討を進めていきたい。シミュレーションと現実との関係を確認していく。

- ・今年、美和ダムでの排砂と高遠ダムのスルーシングを6時間実施してSSが5万Mg/L程度であった。土砂移動の観点では、排砂・スルーシング時間を延長することが有利ではあるが、魚類影響も大きくなると考えられる。
スルーシングされた土砂の移動量をGPSなどで把握することができないだろうか。
- ・シミュレーションでは見えてこない事象について、現地の状況確認と合わせて進めていただきたい。土砂移動の確認については、トレーサーなどの工夫を検討されたい。
- ・土砂還元によって、土砂が淵に堆積するとその影響により瀬が劣化するため、瀬と淵の関係をモニタリングでの確認や監視をしながら進めてほしい。特に蛇行部の淵が重要であるので継続的にモニタリングを実施し、淵に堆積があれば、浚渫などの手当の方法をあらかじめ計画に組み込んでおけると良い。
⇒（事務局回答）整備中における事前モニタリング、試験運用段階でのモニタリング、事業完成後のモニタリングを継続して実施していく。河川事務所と連携していきたい。
- ・アユは濁りに弱い魚種ではあるが、濁ったからといってすぐに死んでしまうのではなく避難していると思われる。支川や湧水の出る場所へ避難するので逃げられる場所を確保することも検討するとよい。
- ・今回の増額要素として社会的要因による影響も大きいのでやむを得ないとする。
今後の地質調査の結果によっては、設計の見直しや対策実施によって工期延伸すると、工期延伸期間の物価上昇の影響をまた受けてしまうことになる。現段階での調査状況から計画工程通りに進む見込みはあるのか。
⇒（事務局回答）地質調査はまだ完了していないが、これまでの地質調査の結果では、地すべり対策は必要ない見込みである。なお、現状の地質調査から予見できるリスクに対する対策を、可能な限り事業費や工期に見込んでいる。
- ・貯水池運用が変更されることによって、ダムや貯水池斜面への影響が生じないか。
⇒（事務局回答）洪水調節においては、従来の発電運用とは異なる水位運用を行うため、確認のための試験運用を行うこととしている。
- ・恒久的な堆砂対策により、28万m³を佐久間ダム下流に置土するが、佐久間ダムの下流に山のように土砂が溜まってしまうようなことが生じないか。
⇒（事務局回答）施設能力としては28万m³の土砂を運搬する能力を有している。また、河川への土砂還元については、シミュレーションで確認しているところであるが、今後、具体的な運用を関係者と調整していく。
- ・計画と現実の違いを把握するため、モニタリングを早く行くと良い。
- ・継続したモニタリングによって河川の状況を確認しながら、順応的な管理のもと実施していくこと。

- ・社会情勢の将来像はどのような想定のもとで試算がされているか。
⇒（事務局回答）社会情勢の将来像については、資産や事業費、工期について感度分析を行っている。仮に1割資産が減った場合においても事業の投資効果が得られていることを確認している。
また、事業評価は5年毎に実施され、その時点の社会情勢を確認しながら進めて行きたい。
- ・秋葉ダムをスルーシグした土砂が遠州灘に到達するまでの間、土砂移動による土砂堆積はどのように対応していくのか。
⇒（事務局回答）土砂移動による河川の土砂堆積については、堆砂対策施設や秋葉ダムのスルーシグの具体的な運用について関係者と調整しながら検討するとともに、河川事務所とも連携していきたい。
- ・事業については、一般の方に災害軽減や市民生活の向上等に効果があることを理解いただけるように分かりやすい発信をしていただきたい。そのためにも広報・広聴活動を積極的に実施してほしい。
⇒（事務局回答）下流の受益者の方にも事業をご理解いただくことは重要であり、事業者として広報活動を重視し、地域のイベントなどの積極的な参加を通じて広報を行っていききたい。
- ・治水について非常に重要だと理解した。一方で利水面も大切。
近年の降雨の二極化と高温化で農業の水需要が増加し、節水も厳しい状況となっている。貯水池運用や秋葉ダムスルーシグの運用について、モニタリング結果なども含めて利水者が理解できるよう説明してほしい。
⇒（事務局回答）利水者の方にも丁寧に説明・情報提供を行っていききたい。
- 天竜川ダム再編事業の再評価について審議を行い、「事業継続」とする対応方針（原案）を了承された。

（２）その他

・中部地方整備局事業評価監視委員会（R7.8.5開催予定）への報告内容とりまとめ

- 第10回（令和7年度第2回）天竜川水系流域委員会での審議結果を中部地方整備局事業評価監視委員会（R7.8.5開催予定）に報告するため、以下のとおり審議内容をとりまとめ了承された。
- ・天竜川ダム再編事業の再評価について審議を行い、「事業継続」とする対応方針（原案）を了承する。
- ・置土や秋葉ダムのスルーシグによる、環境や漁業等への影響やそれを踏まえた具体の運用について、関係者等の意見も踏まえながら調査・検討をすすめられたい。

- ・貯水池の運用変更にとまなう水利用への影響への懸念の声もあるため、丁寧な説明を心がけられたい。
- ・事業の意義・効果を地域に理解いただけるよう、わかりやすい広報に努められたい。

4. 閉会

閉会挨拶（中部地方整備局 天竜川上流河川事務所長）

以 上